The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan

Branch Spirit

西日本支部

市民公開講演会「マッサンこと竹鶴政孝氏のウイスキー人生」

室岡　義勝

昨年秋からの，朝のNHK連続テレビドラマの「マッサン」が大人気である．マッサンが，竹鶴政孝をモデルにしていること，そして彼が日本での本格的なウイスキー造りの創始者であることはよく知られている．広島醗酵会では，竹鶴政孝氏を親代わりの伯父として身近に接してこられた竹鶴酒造の代表取締役会長，竹鶴壽夫氏に政孝氏のウイスキー人生について講演していただくことを企画していた．広島醗酵会は，広島大学工学部醗酵工学科やその前身の広島高等工業学校醸造科および大学院先端物質科学研究科・分子生命機能科学専攻の卒業生の同窓会組織である．そのうち「マッサン」の放映が始まった．しかし内容はアレンジされたドラマなので，日本のウイスキー造りとその原点である日本酒造りを広く市民に知っていただくために，日本生物工学会・西日本支部と共催で市民公開講演会にすることになった．

この企画は，学会支部主催としては大成功であった．後援をお願いした中国新聞に市民講演会開催記事が載った日の数時間後には，募集の200席が埋まってしまった．講演会には，本会元会長の吉田，新名，原島諸先生も参加された．

竹鶴酒造，スコットランド留学，サントリー

以下，ホテルグランヴィア広島で1月24日（土）午後3時半から開催された竹鶴壽夫氏の講演内容を紹介しよう．「マッサン」では，主役も会社名も巧妙に変えているがここでは実名を出させていただく．

政孝氏は，広島県竹原の造り酒屋，「竹鶴酒造」本家の屋敷で生まれた．竹原は，広島県のほぼ中央の瀬戸内海に面した商業都市で，古くには戦国大名小早川氏興隆の地であり，江戸時代は製塩業で栄えた．竹鶴家は頼山陽を生んだ頼家や吉井家とならぶ三大製塩業主の一つであり，1733年から酒造業も手がけ，小笹屋竹鶴を屋号としていた．13代当主の壽夫氏の祖父（11代当主）は生後まもなく両親を亡くしたため，政孝氏の両親が後見人として分家より本家に移って酒造業を受け継いだ．政孝氏の父親は研究熱心で，吟醸酒の父と言われる安芸津（竹原と呉の間）の三浦仙三郎らと軟水による酒造り技術を磨いた．この技術により近くの西条は，日本三大名醸地の一つとなっている．

三男の政孝氏は酒造りを身近に見て育った．そして，忠海中学より大阪高等工業学校の醸造科に進学した．大阪大学工学部醗酵工学科（現，応用自然科学科）の前身である．忠海中学の後輩には，後に首相となる池田勇人氏がいて，政孝氏と寮で寝起きを共にした．二人の晩年のテレビ対談の中で政孝氏は，「あんたがこんなに偉うなるんじゃったら布団の上げ下げをやらせんかった

市民公開講演会で講演中の竹鶴壽夫氏

著者紹介　大阪大学名誉教授　E-mail: murooka@bio.eng.osaka-u.ac.jp

NII-Electronic Library Service

The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan

のに」と池田首相と談笑している．

大阪高等工業学校醸造科では，坪井仙太郎教授に醸造学と応用化学を学んだ．政孝氏は，旧制中学，高等工業とも柔道部で活躍した．卒業した政孝氏は，洋酒メーカーの摂津酒造に醸造科の先輩の岩井喜一郎氏を訪ねた縁で，阿部喜兵衛社長に見込まれ，入社1年後には，スコットランドで本格的なウイスキー造りを学ぶように留学を勧められている．サンフランシスコ経由でカリフォルニアのワイナリーを見学し，半年かけて英国にわたり，1919年4月グラスゴー大学とロイヤル工科大学の特別聴講生として有機化学・応用化学を学んだ．ウイスキー造りは，ロングモーン蒸留所の研修から始まった．

「マッサン」人気の主役であるエリーは，開業医の長女で本名は，ジェシー・ロバータ（リタ）・カウン．妹が政孝氏と同じグラスゴー大学で学んでいたこと，その弟に柔道を教える縁で知り合った．「一体どんな英語で口説いたのだろう」との壽夫氏のジョークで会場は笑いに包まれた．リタや政孝の母親達の反対を押し切って二人は結婚した．キャンベルタウンで新婚生活を始めた政孝氏は，ヘーゼルバーン蒸留所の工場長の好意で研修しながら，ウイスキーに関する製造法から税制，社員待遇に至る克明な記録をとった．これが，竹鶴ノートであり，後に日本でのウイスキー工場建設の基本となる．

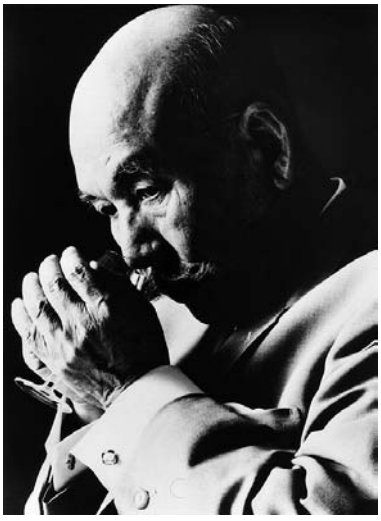
1920年秋，政孝氏はリタを伴って帰国した．しかし，第一次世界大戦後の大恐慌余波により，摂津酒造も業績不振でウイスキー製造計画は取りやめとなり，政孝氏は退社して，大阪の桃山中学の化学教師となる．摂津酒造は，昭和半ばに現在の宝酒造（株）に併合された．そして，1年後日本での本格的ウイスキー造りを計画していた寿屋（現サントリー）の社長，鳥井信治郎氏に請われて寿屋に入社し，日本初のウイスキー製造を始めることになる．28歳の政孝氏の年俸は，英国から招く予定であった技師と同じ額が支給された．時の総理大臣の4倍という高給であり，信治郎氏の技術者を大切にする精神と懐の大きさがうかがえる．

ところで，講師の壽夫氏はこの度の「マッサン」のテレビドラマ化で一番気を揉んでいたのは，「サントリーがどのように描写されるか」だったという．しかしドラマでは，鳥井信治郎氏の温かい人となりと時代の先を見据えた経営手腕が見事に描かれていて心配は危惧に終わったと．ウイスキー工場は現在も阪急，JR，新幹線の車窓からもその象徴的建物がうかがえる天王山の麓「山崎」に社長の強い意向で定められた．山崎の水や湿気がウイスキー造りに最適で消費地に近いことがその理由であった．

ウイスキー造りの材料や設備の多くは英国から，醗酵桶や貯蔵樽はアメリカから輸入したが，ウイスキー製造の要である単式蒸留器（ポットスチル）は，政孝氏が設計して大阪の渡部銅工所で作らせた．醗酵職人には，故郷広島安芸津の杜氏18人を雇った．

ニッカウヰスキー

サントリーとの契約期間の10年を過ぎて，政孝氏は念願の本格ウイスキー製造のため，予てより思い描いていた北海道に渡り，余市に居を構える．余市は気候風土がスコットランドに似ていて，水も良く，麦芽を燻すピートも採れた．大阪の3名の出資者の援助のもと，余市のリンゴからリンゴジュース造りで元手を稼ぐため大日本果汁株式会社（後のニッカウヰスキー）を設立した．その後，多くの困難を乗り越えて，スコットランドより帰国後20年にして，日本産の本格ウイスキー造りを成功へと導く竹鶴政孝氏の立志伝は，よく知られたところである．壽夫氏によると政孝氏は，経営者として成功したとは言えなく，経営は絶えず苦しかったという．しかし，多くの友人に恵まれた．特に，経営難の時助けてもらった朝日麦酒（現アサヒビール）社長の山本為三郎氏に感謝していたという．その縁でもって，現在ニッカウヰスキーはアサヒビールが親元となっており，今回の講演会



NII-Electronic Library Service

The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan

はアサヒビールも後援団体となっている．

リタ夫人は，来日以来気苦労が絶えなかった．特に戦争中は，日本に帰化してはいたが，敵国の女性として特高警察が見張っていたという．それでも，日本の婦人以上に日本人らしく，夫の政孝氏を支えてきた．病弱であったリタ夫人は64歳で亡くなった．「スコットランドで暮らしていれば，もっと長生きしたであろうに」と，政孝氏は部屋にこもって悲嘆にくれた．リタ夫人の墓は，余市蒸留所を見下ろす丘の上に建てられた．その墓碑には，“IN LOVING MEMORY OF RITA TAKETSURU BORN 14th DEC 1896 DIED 17th JAN 1961”と刻まれている．「明治生まれの男が，こうしたLoving Memoryを刻んでいることから，いかに政孝氏がリタ夫人を大切に思っていたかがうかがえる」と壽夫氏は語った．

政孝氏とリタ夫人の間には子供がなかったことから，政孝氏の姉の息子，威（たけし）を養子として迎えた．竹鶴威氏は，福山市で生まれ，広島高等工業学校・醸造科（現広島大学工学部第三類）を1945年に卒業した．威氏は原爆当時，丁度実家に帰省していたため被災しなかったが，壽夫氏の父親は広島市で疎開奉仕活動中に被曝して亡くなられた．威氏は，北海道大学工学部に進学して化学を専攻し，その後ニッカウヰスキーに入社して，政孝氏とともに仙台に宮城峡蒸留所を新設しウイスキー製造を軌道に乗せ，社長，会長として活躍した．広島醗酵会の東日本支部長をされている時お目にかかった威氏は，科学者肌で大変温厚な方だったが，残念ながら昨年の暮れに90歳で亡くなられた．政孝氏とリタ夫人は，威，歌子夫妻とも仲良く，二人の孫をことのほか可愛がった．政孝氏は，「リタ夫人との間に子供がなかったのは，その方が良かったかもしれない」と，壽夫氏に漏らしている．戦前の日本では，混血児は「あいのこ」と言って，いじめられたに違いないからと．

世界最高賞に輝く日本のウイスキー

2001年，「シングルカスク余市10年」は，国際ウイスキーコンテストにおいて「Best of the Best（世界最高得点）」を獲得し，その後ほぼ毎年のように「竹鶴21年」や「竹鶴17年」は，WWA（World Whisky Award）を受賞している．サントリーのウイスキーも同賞を度々受賞しており，竹鶴政孝氏の日本におけるウイスキー造りへの情熱の結晶は世界のウイスキーとして認められるにいたった．

壽夫氏は，「本物の日本酒を造れ」と政孝氏に言われていたという．そして今，壽夫氏は，日本酒を「生酛づくり」という伝統的手法により木桶と木樽を使って，日本酒の「竹鶴」を醸造している．政孝氏は波乱に富んだしかし充実したその人生を1979年8月に85歳で閉じ，余市にリタ夫人と眠っている．往年は毎晩ウイスキーを1本空けていたというまさにウイスキー人生であった．

NII-Electronic Library Service